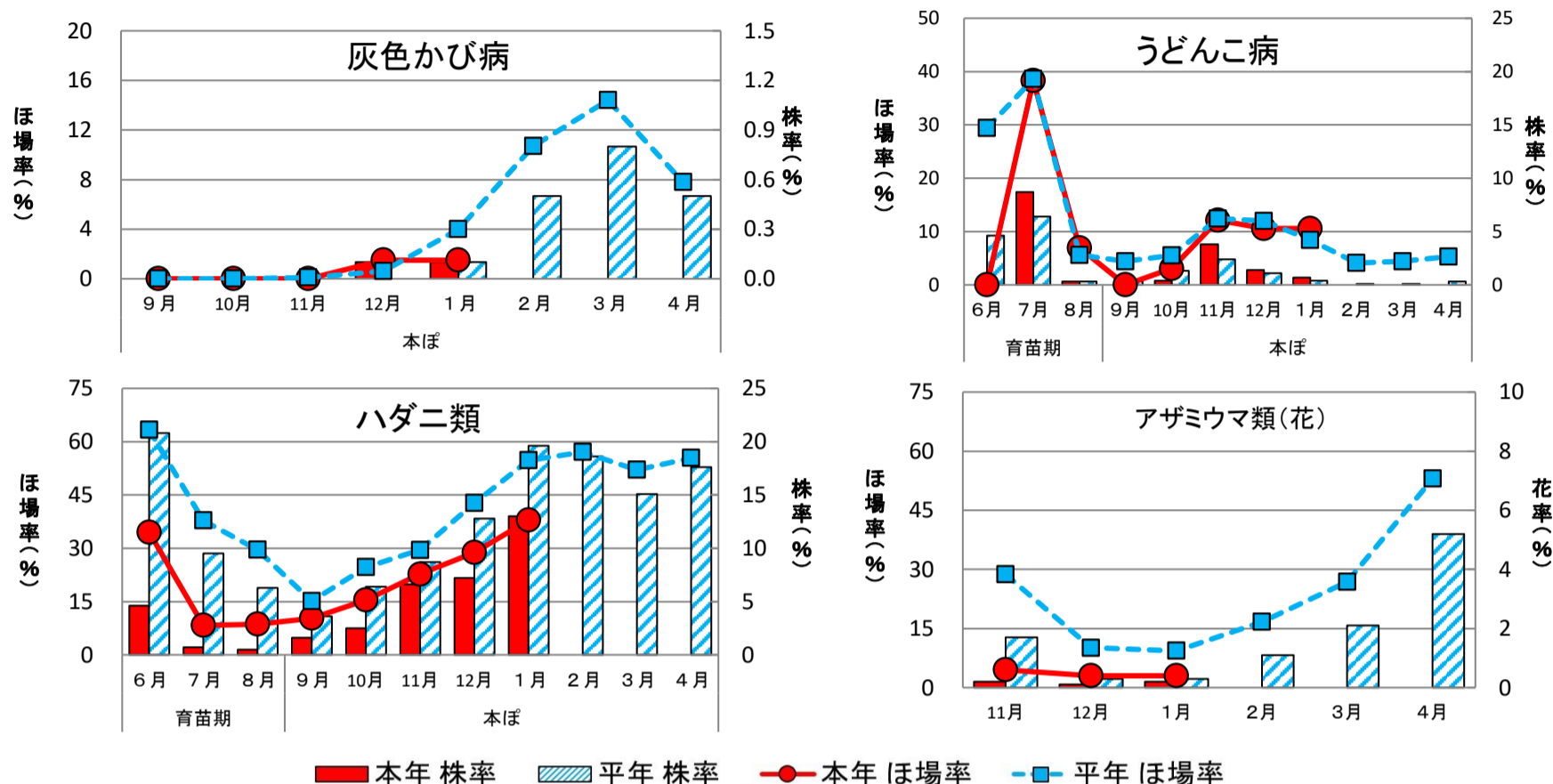


いちご病害虫情報第8号 (1月)

令和4(2022)年1月21日
栃木県農業環境指導センター

■ 病害虫の発生状況

- ・ 灰色かび病の発生はやや少なく、うどんこ病の発生は平年並みです。
- ・ ハダニ類の発生は平年並みで、アザミウマ類の発生はやや少ないです。



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%):発生株数/調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%):発生が確認されたほ場数/調査ほ場数

■ 主な病害虫の発生予想と防除対策

1 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・ 発生量：平年並
- (2) 対策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元や花房の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
- ・ 発病した果実等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
- ・ 発生初期に、アフェットフロアブル等を散布する。
- (3) 備考 [灰色かび病薬剤感受性結果①](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。
[灰色かび病薬剤感受性結果②](#)を当センターHPに掲載中。

2 ハダニ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量：平年並
- (2) 対策 ・ 天敵導入ほ場では天敵の生育状況等をよく観察し、必要に応じて追加放飼を検討する。
- ・ 化学農薬に対する感受性低下が著しいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ・ 厳寒期の気門封鎖剤全面散布は、天敵に対して影響があるので注意する。
- ・ 葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (3) 備考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

3 アザミウマ類

- (1) 発生予想 ・ 発生量：少ない
- (2) 対策 ・ 低密度のうちにカウンター乳剤等のIGR剤を散布する。
- ・ 被害が大きくなるおそれがある場合には、スピノエース顆粒水和剤等を散布する。本剤はカブリダニ等の天敵に影響があるので、注意する。
- (3) 備考 ・ 秋期にアザミウマ類の発生が多かった施設は、注意する。
- ・ [アザミウマ類薬剤感受性検定結果①](#)を当センターHPに掲載中。
- ・ [アザミウマ類薬剤感受性検定結果②](#)を当センターHPに掲載中。

■ 今月のトピックス 灰色かび病

被害症状について

灰色かび病は、果実、ガク、果梗、葉、葉柄を侵し、灰色のカビが密生する。果実がもっとも侵されやすく幼果が侵されると、病斑は速やかに果実全体にひろがり、褐変あるいは黒褐変し、多湿のときには、軟化腐敗する。枯死した部位や、古葉、収穫後の果梗、果実にも発生する。特に例年2～4月頃の発生が多くなるので注意を要する。



果実の病斑



果実全体に密生する灰色のかび



花弁が残る果実の暗褐色初期病斑



葉柄の基部に発生した病斑

防除対策について

1. 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元や果房の風通しをよくするよう株を整える。
2. かん水量や換気時間、保温時間に注意し、ハウス内の湿度を下げる。
3. ほ場を良く観察し、発病した果実や果梗、枯死した部位は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
4. 発生初期に薬剤防除を行う。